わたしの選択

〈1・2面から〉

農業と食料

生命とくらしを守る農政を

福岡県　米農家　鬼木恵美子（74）

私たち米農家が米を作る様子はみなさんに見えていますか？ 私たちは天候を気にしながら、「食べもの」を作っています。

農業は、ずっと国の政策に振り回されてきました。今や米作りだけでは生活できません。田んぼは農業法人に貸し出し、ビニールハウスで野菜作りをして生計を立てている人もいます。

米は日本の主食です。米農家が続けていくためには、国からの米の価格保障や所得補償が必要です。消費者には手頃な価格で届くよう管理する責任があるのではないでしょうか。

今まで農家は保守系の候補者を推薦してきました。政策・公約を直視することのない一票が今の状況を作ってしまいました。

生命とくらしを守るとはどういうことか自分の立場でしっかり考えたい。農家の立場から、自給率を柱とする具体的な農業政策を出しているところを応援しています。

教育

ミサイルよりくらしと教育に！

「子どもと教科書全国ネット21」事務局長　糀谷陽子

「このままでは学校が持ちません！」。悲痛な教職員の叫びをよそに、長時間労働の解消につながらない改正給特法が成立。その悔しさを忘れません。ミサイルよりもくらしと教育に！ 私たちの願いをしっかり受けとめてくれる議員を1人でも多くしたいです。

自公を少数に追い込んでも、その補完勢力やもっと右翼的な会派が増えてしまったら何にもなりません。怖いのは、「生活が苦しいのは外国人を優遇しているから」などの排外主義がSNSで簡単に広がってしまうこと。苦しさの原因である政治の責任は棚上げして差別と分断をあおり、不満のはけ口にするのは、〝いつか来た道〟では…。「日本軍の侵略なんて嘘。今の教科書の歴史は正しくない」など、あったことを無かったことにする発言も許せません。

今こそ、歴史に学び、戦争に突き進んだ過ちを繰り返さないために、「それ、おかしいよ」と声をあげ続けていかねばと思います。

沖縄

まるで戦争前夜　状況変えたい

沖縄県南城市　東江真澄

私が選挙に関心を深めたのは、10代の死因1位が自死と知ったからです。この異常さを調べていくうちに政治にたどり着きました。経済、教育、健康など格差が生じやすく平等に享受されにくい、多くの人が国に期待も希望も持てない状況に陥っていると思います。

さらに沖縄では戦後80年たっても、基地から派生する事件事故や環境破壊が後を絶たず、軍拡も進み、戦争体験者からは、まるで戦争前夜だと言われる状況。その中でのひめゆりの塔をめぐり、沖縄戦の歴史の事実を否定した自民党の西田議員の発言は許し難いものでした。

新日本婦人の会
沖縄戦を学べ

西田議員に抗議する記者会見で、新婦人県本部のみなさん（5月24日）

沖縄は基地問題が選挙の争点の1つであり、今回の参議院選挙では憲法学者として教壇に立ち、平和運動をおこなう、子育て真っ只中のタカラさちかさんが立候補されました。明るい沖縄を切り拓くためにも、憲法の強みで政治の場を正してくれるタカラさんを、一致団結して国会に押し上げたいと思います。

被災地

住宅確保と生活再建支援の継続を

石川県輪島市　山下ひな子

輪島市では家屋などの解体が進み、空き地が多くなり、人口流出で子どもも減って、小学校は半分になりました。道路やがけ崩れも応急対応しただけで、手付かずのところもたくさん残っていて、市民は再び地震や水害が起きたら、と常に不安を抱いています。

住民の一番の願いは将来も安心して住める家の確保です。ところが、家の修理は未だに順番待ち、災害公営住宅は家賃が高く、物価高騰で家の再建を断念した人も少なからずいます。多額の予算を軍事費にあてるのではなく、安心して住める家の確保に回してほしい。

生活再建は遠い状況なのに、医療費、介護利用料の免除は6月末で打ち切られました。物価高で大変ななか、たった一度の2万円の給付ではなく、消費税を下げてほしい。

被災者に寄り添う政治への転換を、この選挙で実現させたい。

「参政党問題と有機農業・農薬批判をカルト化する言説」より一部抜粋

「OKシードプロジェクト」事務局長　印鑰智哉

"Sem Feminismo não há Agroecologia"
Movimento de Mulheres do NORDESTE PARAENSE-MMNEPA.

「フェミニズムなしにアグロエコロジーはありえない」　©MMNEPA

農業や食の政策がずっと自動車産業を守るために犠牲にされ続けてきた日本で、次の参議院選挙ではその政策を変える候補に投票したいですね。しかも「令和の米騒動」と言われる事態が起きており、離農する農家が続出する状況ですからなおさらです。そんな中「参政党はいいよね」との声も聞こえてきます。確かに有機農業や食料自給率の向上をうたっています。でも、それは本当でしょうか？

実は同じことが歴史では繰り返されました。ナチス・ドイツは「飢餓から子どもたちを守れ」というスローガンで支持を獲得したと京都大学の藤原辰史さんは指摘します。ナチス・ドイツはドイツで生まれたバイオダイナミック農法の指導者を取り込み、有機農業の普及を政策に掲げます。しかし、ナチス・ドイツの本質が実際には障がい者、ユダヤ人、反対勢力を抹殺する人種主義・優生思想にあったことは歴史が語っています。有機農業の普及は民主主義思想に対抗するため、自分たちの思想を箔付けするために利用したに過ぎません。

もし、農村に女性差別が強く残り、女性が尊厳を守るために村を出なければならないような環境であれば、その農村が発展することは不可能です。アグロエコロジーを進める人びとはフェミニズムなしにアグロエコロジーはありえないと繰り返し、主張しています。そして女性の権利が向上した地域でこそ、やはり農業や経済も進んでいることも指摘されています。その意味でも、女性の主体性を認めない参政党の主張は到底、農業や地域を発展させることはないでしょう。

全文はこちらから↓

参政党 神谷代表に 抗議する 緊急アクション

全国150カ所超

京都府本部

東京・北支部

だれも排除しない社会に
私の生き方私が決める
女性差別反対

北海道本部

福井県本部

秋田県本部

女性 働く

月1回

法で守られない公務員　④

――会計年度任用職員とは

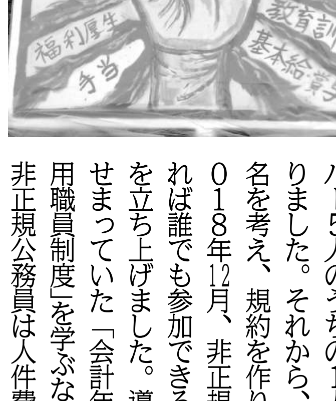
野田　恵

私は関西のある市役所で働く会計年度任用職員です。

私は子どもの頃から人見知りで、それは、大人になっても変わらず、40歳くらいまでは他の人の意見に合わせていました。自分の考えを言えるようになったのは、子どもの学校の役員をした時に、私が発言したことに「ありがとう」と感謝されたことがきっかけです。その時、私も意見を言って良いのだと実感したのを覚えています。

非正規で働く人の組合をつくる

市役所で非正規として働き始めて3年目ぐらいの頃、「なんでこんなに差があるの」「私も先輩に指導されたい」「もっとちゃんと扱ってよ」と心がざわざわするたびに、「でも私たち非正規は責任ないし、気楽だから」と自分に言い聞かせてきました。


均等待遇
福利厚生
手当
教育訓練
基本給賞与

初めて参加したメーデーで掲げたプラカード

そんな思いも何年か経ち、もう諦めていた頃です。市役所で働く非正規の組合をつくるという話が持ち上がりました。当初は、自分がやらなくても誰かがやってくれると思っていたのですが、やっぱり自分も意見を言いたいと思うようになり、組合を立ち上げるメンバー5人のうちの1人になりました。それから、組合名を考え、規約を作り、2018年12月、非正規であれば誰でも参加できる組合を立ち上げました。導入がせまっていた「会計年度任用職員制度」を学ぶなかで、非正規公務員は人件費ではなくモノ扱いされていることも知り、改善を求めて交渉するなど、活動してきました。組合員も少しずつ増えて今は約40人です。

2024年度末、すごくショックなことがありました。10年以上勤めていた仲間が雇い止めにあいました。10年以上働いてきたのに、「来年からは（採用更新は）ありません」と言われたのです。私も一度、言われたことがありました。今、18年目ですが、年度末になるといつも不安になります。安心して働けるような環境にしたいです。自分のためでもありますが、同じように働いている人が少しでも労働環境が良くなるように。そんな気持ちが今、労働組合の執行委員長として活動する原動力になっています。

ホットライン

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス　s-press@shinfujin.gr.jp へ

青森

被爆者支援 原爆展

【青森支部　坂本麻衣子】せんぶり班では6月13日に被爆者支援バザーと原爆写真&高校生の原爆の絵展を同時開催。敷地を借りているお宅（元商店）のシャッターに原爆写真&絵を貼り、原爆の絵に見入っている人も。てぶくろ班も協力して、署名の呼びかけや新婦人のチラシを配りました。

署名を呼びかけた▲青森

「高校では広島に修学旅行に行きたかったけど沖縄だった。でも沖縄でひめゆり部隊のことを学んだ。被曝のことを知るのも大事」と署名、カンパもしてくれました。

滋賀

タイムリーな「お米カフェ」

【東近江支部　小山博美】6月6日、環境くらし部でとりくんだ「お米カフェ」は、17人の参加で部屋いっぱいに。講師の中井さん（滋賀農民連事務局長）の〝お米に関わる本当の詳しい話〟に聞き入りました。「米不足を認めようとしない政府。備蓄米放出はもっと早く実施すべきだった。そもそも政府の農業政策（減反、農家への戸別補償や価格保障をやめ、自由流通にした等）が間違っていたから農家も消費者も困ることに」。

手作りの桜もちとケーキ、赤飯おにぎりに大満足。フリー発言では、切れ間なく質問や意見が出ました。今の政治を変えないと米問題も解決しない。今度の参院選挙で変えましょう！

選挙で変えよう！▲滋賀

静岡

農民連と学習交流会

【浜北支部　大塚祐子】県本部主催の農民連との学習交流会をうけて、急きょ農民連浜北役員に相談し、4人の生産者と農民連役員1人、新婦人から13人が集まり、学習交流会を開催。

米価の高騰の原因、小泉農相の備蓄米放出がもたらす影響、生産者の生の声を聞きました。新婦人も質問や意見を出し合い、30年来の産直運動での感謝を伝えました。

米増産・農家への価格保障も言わず、減反の反省もしないで、この機にアメリカの要求であるコメの輸入を進める自民党政権に対抗するには、生産者と消費者がつながること。参院選では、各政党の政策を見極め、選択しようと確認しました。

生産者からの産直米のミニおにぎりも大好評！ 農民連役員より「産直運動で会員も増やそう」と呼びかけられ、早速、近所の子育て中の方が10月から入会に。その方が友だちも誘うなど、新たなつながりも生まれています。

新たなつながりも▲静岡

新潟

次世代チームで教科書ウオッチ

【新潟支部　飛田麻理子】次世代チームみつばちの7人で教科書ウオッチング（教科書展示会）に行きました。にいがた県民教育研究所の方も毎年一緒に参加、交流しました。

今年は、小中学校とも教科書改訂はなく、展示教科書は、現在子どもたちが使っているもの。教科書を学校に置いてくる「置き勉」も主流で、自宅で保護者が見る機会も少なくなっています。

「受験教科ばかりでなく、家庭科や、地学（地震や気象や防災）など、生活に必要なことにもっと時数を増やしてほしい」「楽しそうな教科書だけれど受験生の息子は楽しい！と使っているのだろうか」「美術や技術家庭など専門的なことを教える教員が足りていない」など。教員の増員は喫緊の課題です。

じっくりウオッチング▲新潟

熊本

生産者と消費者 田植え交流

【熊本支部　正岡やよい】久しぶりの田植えに新婦人から、おとな7人子ども5人が参加。生産者7人が準備をして待っている田んぼへ。

苗箱を用水路で洗ったり、田植え機の通った後の地ならしをしたりして、最後に田んぼに入り苗を植えました。子どもたちはヌルっとした感覚に戸惑っていましたが、最後までがんばりました。

みんながんばった◀熊本

双子の孫ちゃんたちもお父さんのすることをしっかりと観察、用水路に入り苗箱を手際良く洗ってくれました。

田植えのあとはバーベキューで交流。山間地の田植えの大変さや、小学校や保育園の田植えの指導を長年とりくんでいるなど、子どもたちに伝える大切さを語りました。

秋にはみんなで稲刈りに行きましょう。

千葉

班会で養蜂家を訪ねる

【勝浦班　戸部由利】6月30日の班会で勝浦市内の養蜂家を訪ねました。山の奥にたくさんの巣箱があり、蜂の習性を研究して、毎日の世話に目を離せない上、草刈りや山の手入れなど大変な仕事とわかりました。

大変な仕事です▲千葉

一匹の蜂が一生に集めるはちみつは小さなスプーン1杯。見学後、はちみつを味わいながらトークタイムを開きました。

通信ありがとう

〈6月〉

〈県別〉

北海道42、青森7、岩手7、秋田1、宮城13、福島6、東京60、群馬5、栃木6、茨城12、埼玉31、千葉16、神奈川14、山梨3、静岡8、愛知47、岐阜6、三重13、新潟15、富山2、石川7、長野24、福井2、滋賀5、京都80、奈良8、和歌山11、大阪45、兵庫37、岡山8、広島5、鳥取5、島根2、山口17、香川4、徳島9、高知4、愛媛2、福岡13、佐賀2、長崎7、熊本7、大分3、宮崎1、鹿児島7、沖縄3

〈内容〉

県活動11、支部活動38、班活動12、俳句122、短歌77、川柳84、詩4、絵手紙54、ギャラリー2、投稿228

合計632